

## 新規陽性者の発生動向

### (1) 大阪府の発生動向

- 新規陽性者数は第四波を上回る速度で減少し、直近 1 週間で一日平均73名。  
なお、東京都は大阪府より 1 週間早く減少に転じており、10月20日時点の 1 週間平均においても減少を続けている。  
一方で、東京都と同じタイミングで減少に転じた北海道や沖縄県は、直近 1 週間で微増している。
- 夜間滞留人口は、緊急事態措置解除（10月 1 日）に伴い、急拡大しており、これまでの波は人流が拡大すると感染拡大していることから、今後、感染拡大の恐れがある。

### (2) 感染・療養状況とワクチン接種状況

- **ワクチン 2 回接種率は60代以上86.1%、40～50代62.6%、20～30代44.5%。**（10/18にVRSダッシュボードよりダウンロードした数値）。

※令和 3 年 9 月 3 日に国の分科会が示した「努力により到達し得るワクチン接種率」は、**60代以上85%、40～50代70%、20～30代60%。**  
この接種率の場合、ワクチン未接種者を中心に、**接種機会を50%程度低減**（マスク着用等に加え、会食の人数制限やオンライン会議、テレワークなど）**しなければ、感染を一定水準に抑制することが難しくなり、緊急事態措置等の強い対策が必要になる、とされている。**  
**理想的な接種率は、60代以上90%、40～50代80%、20～30代75%であり、未接種者を中心に、接種機会を40%程度低減**（マスク着用や三密回避等）**することで、緊急事態措置等の強い対策を実施する必要性がなくなる可能性がある**とされている。  
※なお、この予測には、新たな変異株の出現やワクチン効果の減弱、気温の低下等の要因は考慮されていない。

- **2 回接種後14日以降の陽性者が確認されている。**  
**ワクチン 2 回接種後14日以降の新規陽性者のうち、陽性判明時に無症状であった者は、ワクチン未接種者と比べて多いことや、2回接種後14日以降の新規陽性者は、未接種に比べ、濃厚接触者やクラスターによる集団検査で感染が確認される割合が高い。**  
これらのことから、ワクチンには、発症や重症化予防効果が期待されるが、一方で発症予防によって、感染に気付かないまま周囲に感染を拡げる可能性があり、**ワクチン接種後の感染予防対策の継続が必要。**
- **ワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、2 回接種後14日以降の陽性者の方が低い（ワクチンによる重症化予防効果が期待）。**
- **ワクチン接種が進んでいる国（イギリスやシンガポールなど）においても感染が拡大。**

# 感染状況と医療提供体制の状況について

## 医療提供体制の状況

- 重症・軽症中等症病床使用率がともに改善し、大阪モデルに基づく「警戒」解除の目安を10月20日に満たしている。
- 国の分科会指標についても、入院率と感染経路不明者の割合を除き、ステージⅢの目安を下回っている。

## 今後の対応方針について

- 新規陽性者数が1日平均73人まで減少し、医療提供体制も改善している。
- 希望する府民へのワクチン接種は11月末までに概ね完了する見込みであり、リバウンド防止のため、引き続き段階的緩和による措置が求められる。
- また、府民においては、ブレークスルー感染の可能性が指摘されるなかで、ワクチン接種後も感染防止対策の継続が必要。特に、冬に向けて寒さや乾燥が増すことから、こまめな換気の実施や適度な保湿など、一層の感染防止対策が求められるとともに、飲食の場面における感染リスクを減らすため、飲食時以外はマスク着用の徹底が必要。